令和5年度　環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会　発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備“に取組む	
昨年度から引き続き“環境整備“に取組む	✓

活動団体名：㈱地域価値協創システム

活動地域　：北海道美幌町と周辺自治体

活動におけるテーマ

『製炭による、捨てない経済循環と
働きやすいシステムづくり』

活動団体および活動地域の紹介

株式会社
地域価値協創システム

【団体の紹介】

北海道オホーツク地域の8NPO法人が共同出資して設立した株式会社。
地域資源から新たな価値を創出するために、多様な主体と協働で取り組み、
次世代の地域デザインを描き、実現するための担い手、働き手を育成しつつ、
持続可能な地域づくりを目指すことを目的としています。

ホームページ　https://ovc-system.com/

【地域の紹介】

北海道オホーツク地域の自治体では、人口減少、高齢化の進捗に伴い、後継者不在による廃業や、住民サービスや環境保全活動を担ってきた法人、団体の運営に支障がでるケースが増加している。
その結果、地域まちづくり活動の停滞など地域活力が目に見えて低下してきている。
住民生活・地域環境の維持にも影響が出てきている。

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

＜私たちのありたい未来の地域像＞

資源を活かし経済を地域で循環させ多様な人が安心して働き暮らせる地域

【期待する成果】

脱炭素社会

- エネルギーの地産地消
- 日常生活の脱炭素化

循環経済

- バイオ炭の購入・協力者増
- 余剰物の再資源化
- Ｊ－クレジット創出
- バイオ炭の用途拡大
- 多様な働き手確保
- 様々な商品・サービスの地産地消
- 地域内外のネットワークづくり

分散型自然共生

- SDGsへの関心度UP
- 将来の担い手育成
- 地域資源の再認識

【事業】

【バイオ炭　製炭事業】

環　境　事　業

- J-クレジット創出
- 農業、建築資材開発
- 脱炭素パネル展

観　光　事　業

- エコツーリズム
- 炭フェス、炭カフェの開催
- キッチンカーによる商品紹介
- バイオ炭商品体験

教　育　事　業

〈ローカルSDGsへの理解を
地学協働学習を通して深める〉
対象者…中高生、地域住民、企業関係者

※ステークホルダー

北海道開発局　北海道農政事務所　東京農業大学
林産試験場　美幌町役場　立命館大学
商工会議所　金融機関
農業・林業者　北見NPOサポートセンター

フリースクール　教育委員会
寺子屋　中学・高校
地元NPO　商工会議所

【課題】

○多様な人が働ける場の確保
障がい者・就労条件に制約のある子育て世代

○大量の未利用資源の有効化
間伐材・出荷できない農産物の付加価値化

【資源】

○人的資源
福祉・子育て世代の就労希望者がいる
○物的資源
未利用の木質バイオマス資源
規格外野菜・農業残差物
○情報資源
オホーツク地域の観光地イメージ
北海道ブランドの食材が豊富

年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフミーティング				◆中間報告会					◆成果報告会
仲間を探す						◆炭カフェ		◆炭カフェ ↔ 先進・優良事例視察				◆炭フェス ワークショップ
事業を考える					◆ SDGsセミナー	◆炭化力セミナー				◆事業のタネ創出セミナー	◆バイオ炭ローカル SDGsセミナー	
事業を生み出す				◆製炭品質試験						◆製炭ガイドライン		

今年度チャレンジした主な取組内容

取組①「仲間を探す」

【活動内容】

●炭カフェ

バイオ炭を使用した食イベントでSDGsの取り組みをＰＲ

●炭フェス

バイオ炭を利用したワークショップでバイオ炭に関心を持つ人を増やす

●先進事例視察

バイオ炭製造での新しい取り組み、炭を利用したまちおこしに取り組む人たちとの関係づくり

【成果や気づき】

全国各地に広がるバイオ炭を活用したゼロカーボンの動きを知ることができ、新たなステークホルダーを得た

【活動の様子（炭カフェ】

取組②「事業を考える」

【活動内容】

●SDGsセミナー

SDGsの基本を学び、地域循環共生圏づくりの意味を理解する

●炭化力セミナー

バイオ炭製造の現状と可能性を学ぶ

●事業のタネ創出セミナー

炭を活用した商品・サービスについて地域資源との組み合わせを検討

●バイオ炭ローカルSDGsセミナー

北海道でバイオ炭を核とした循環経済を目指す必要性を認識

【成果や気づき】

バイオ炭の農業、防災、教育等への活用を知り、地域での新たな利用方法についての可能性を確認

【活動の様子（SDGsセミナー）】

取組③「事業を生み出す」

【活動内容】

●製炭品質試験

製炭炉で生産される炭の品質と製炭炉の製炭環境調査を行い、Jクレジット申請に対応したバイオ炭であることを確認

●農・福・環製炭ガイドライン作成

製炭事業を障害者就労継続支援事業として実施していくためのガイドラインを作成

【成果や気づき】

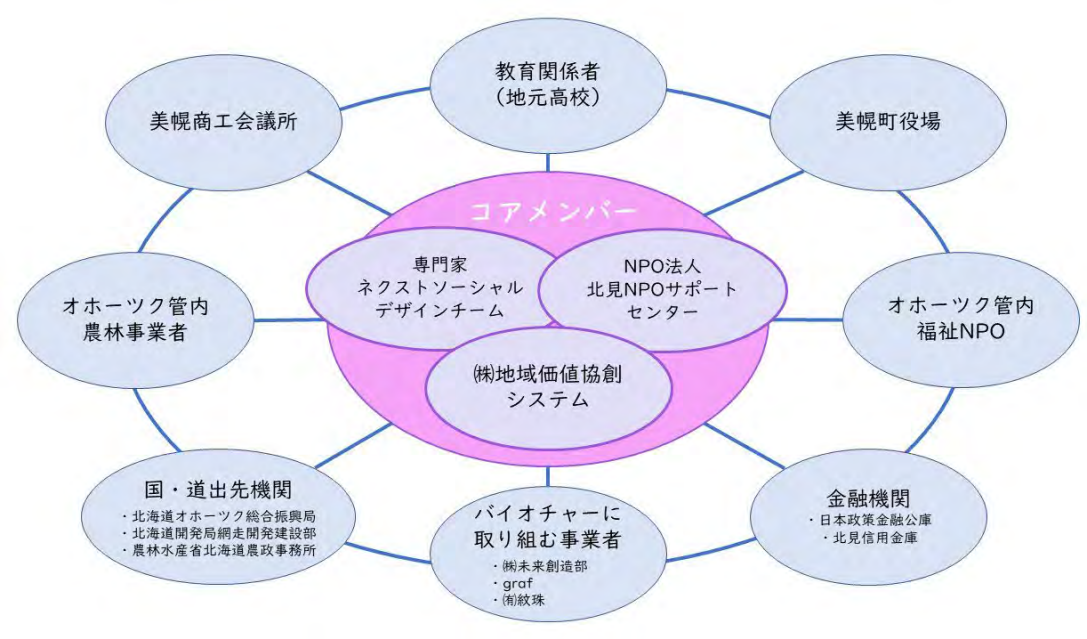
2年間にわたる林産試験場のバイオ炭製造調査により、作業従事者が環境に貢献する事業との認識を持つことができた。

【活動の様子（製炭品質試験）】

現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】

連携した社会福祉NPOが核となり、製炭事業を障がい者就労目的の環境保全ビジネスとして確立し、地元の未利用資源を活用した、ブランド力のある事業として、担い手の育成を進めながら、育てていくプラットフォームを目指しています。



【取り組みを通じての変化】

今年度実施したセミナー、研修会、イベント、事例視察を通じて新たなメンバーも加わり、多様な事業展開が可能な環境が整ってきた。

具体的にはこれまではＮＰＯ団体が核となり、地元行政関係、商工関係者、子育て世代のママたちなどが中心メンバーとして活動してきたが、新たにバイオ炭に関わる大学関係者、バイオ炭について探究学習する高校生、地元有機農業者が加わり、プラットフォームが大きく広がりを持ち始めてきている。今後、バイオ炭を中心とした循環経済により、地域循環共生圏づくりを推進していくうえで重要なつながりを得ることができた。

プラットフォーム形成のポイント

	苦労した点	工夫した点
地域のビジョンを描く	地域に当たり前に存在するものを貴重な資源と意識する	当たり前に埋没している価値の見える化
仲間をさがす	論理的で創造性のある発想のできるひとを集める（類は友を呼ぶ）	信頼できるひとが信頼できるひとを紹介してもらう
事業を考える	見える需要からだけではなく、潜在需要も含め考えること	なくなると困る事業を別の方法での存続を考える（第2創業）
事業を生み出す	期限を決めて、周りの理解を得て進めていくこと	実際にいろいろ試してみる（トライ＆エラー）
体制を整える	作業に適した人材への研修・教育	作業を構成法人間で分担する

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

【取組全体を通しての成果】

1．バイオチャーに関心を持つ人、団体を増やすことができた。
　⇒ステークホルダー、セミナー参加者のひろがり、HP閲覧数の増加

2．社会福祉と環境事業の親和性が確認できた。
　⇒障害者の丁寧な製炭作業が高性能な装置により実現し、環境保全にも貢献できるようになった。

3．今後の事業展開イメージが構築され、参加メンバー間で共有できた。
　⇒新たなメンバーから事業提案がなされた。

【新たな課題】

1．脱炭素を実現するために、市民レベルで具体的な行動をどうすればよいのかわからない住民、団体が多い。

2．地域循環共生圏がこれからの人口減少、少子高齢化社会において、地域にとってどのような意味を持つのかわかりやすく伝える方法が必要。

3．従来の製炭業のイメージが強く、新たな製造法によるバイオチャー等の炭が持つ可能性が伝わりにくい。

活動における今後の展望

【今後実施予定事業】

1．環境事業

・社会福祉事業へのJ-クレジット導入

・ゼロカーボン農業、建築資材開発

・地域循環エネルギーシステム研究

2．観光事業

・エコツーリズム

・炭フェス、炭カフェの開催

・キッチンカーによるバイオ炭商品紹介

3．教育事業

・ローカルSDGs教室の開催

若い世代が地域に合ったローカルSDGs実現を目指す

対象者・・・中高生、地域住民、企業関係者

以上の事業を今後実施していくことで、製炭業を核とした社会福祉と環境保全が融合した新たな地方創生ビジネスモデルを多様な人たちで実現していく可能性がさらに高まっていくことが期待できる。